

Kanro

CSR REPORT

2017

編集方針

本報告書はすべてのステークホルダーにカンロ株式会社のCSR活動をご理解頂くことを目的に、2017年度(2017年1月～12月)の取り組みを掲載しています。カンロでは2013年度より毎年CSRレポートを発行し、報告内容の充実に努めてきました。2017年はCI(コーポレートアイデンティティ)を刷新し、「糖と歩む企業」として自社を位置づけ、糖を基盤とした事業を通じて人々の健やかな生活に貢献することを企業使命としました。それを支える仕組みや活動をご理解頂ければと思います。

対象期間

2017年1月1日～2017年12月31日

ただし、過去の経緯やデータ、最新の事例を示すことが適当である場合は、対象期間外であっても記載しました。

発行情報

発行日 2018年4月(年1回発行/前回2017年5月)

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン2012年版」

ISO 26000

報告書に関するお問い合わせ

カンロ株式会社 経営企画部

Kanro

CSRレポート 2017

CSR方針 02

企業統治 04

コーポレート・ガバナンス
コンプライアンス

社会性分野 08

教育 CSR
社会への取り組み
製品への取り組み

人材活用 16

ダイバーシティ推進
人材活用

環境分野 18

地球環境のために
マテリアルバランス



糖を基盤とした 事業を通じて 人々の健やかな生活に 貢献する。

創業以来の永きに亘り糖に向き合ってきた私たちは、糖を基盤とした事業を通じて持続可能な社会を実現し、より良い未来を創造できる企業でありたいと考えています。

CSR活動の基本方針

キャンディ No.1企業として、持続可能(sustainable)な社会をすべてのステークホルダーと共創することにより、皆様から愛され、信頼される企業になることを目指しています。

ステークホルダー

株主
従業員
顧客
取引先
債権者
社会
など

持続可能な社会を実現し
より良い未来をつくる

目的

社会課題解決
企業価値向上

カンロのCSR全体像

カンロのCSRは、「企業統治」「社会性分野」「人材活用」「環境分野」の4つの分野で構成されています。



SDGsの達成に向けて

SDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)とは、2015年国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年~2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。「誰ひとり取り残さない」を合言葉に、社会開発、経済成長、環境保全を網羅する形で17に分類され、目標ごとに169のターゲットと230の指標が整理されています。カンロも持続可能な社会を築いていくために、これからの未来のためにSDGsの達成に寄与していきます。



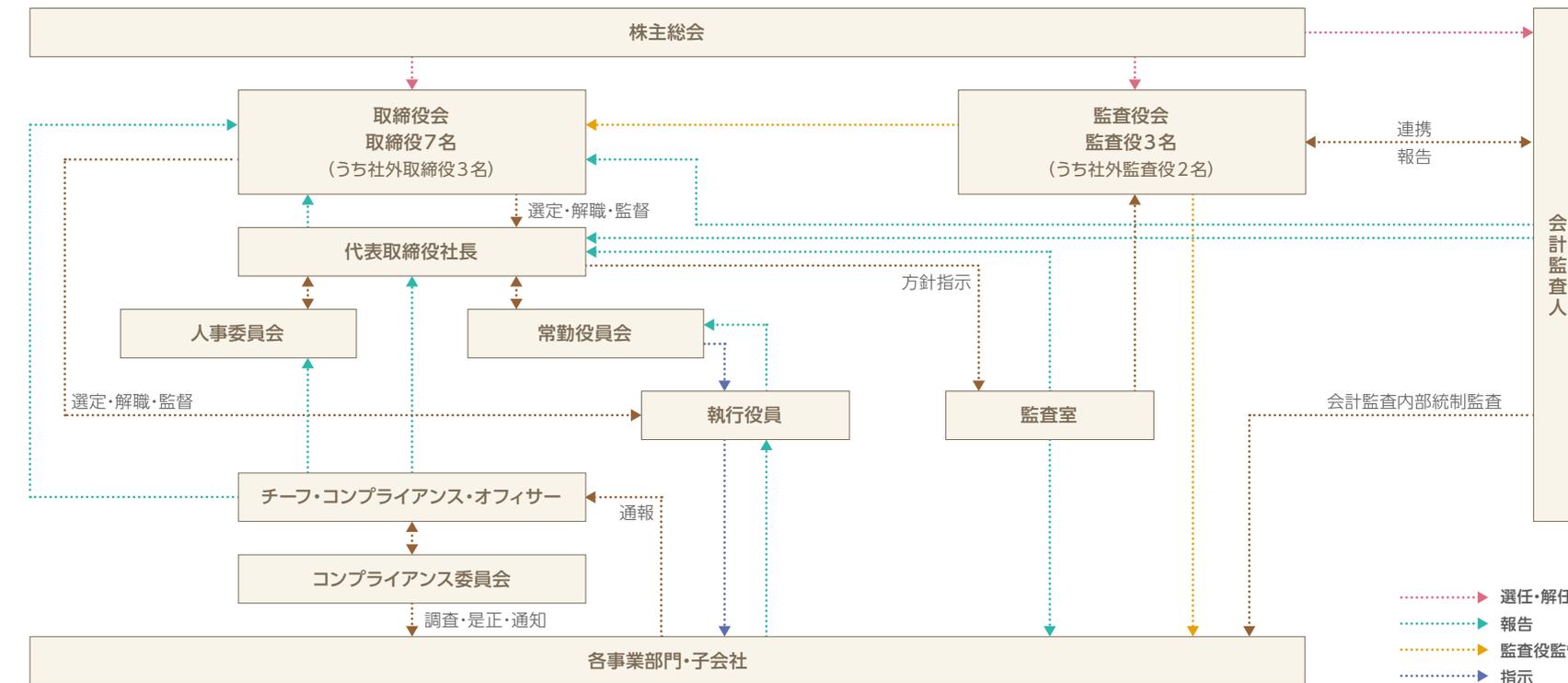
企業統治

Corporate Governance

コーポレート・ガバナンス

カンロでは、経営の透明性と健全性の確保、及び効率性の向上を基本方針として、取締役会及び監査役会の強化、法令違反行為の未然防止機能強化、ディスクロージャー、株主への説明義務が重要であると考え、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。この実現のため、監査役会設置会社の形態

を選択し、独立役員の要件を満たす社外取締役・社外監査役の選任により、経営監督機能を強化するとともに、執行役員制度を導入し、意思決定や業務遂行の迅速化・効率化を図っています。



コンプライアンス

カンロでは、法令・社内規定にとどまらず、一般的な社会規範等を順守して行動することを定義しています。また、全社員を対象とした様々な研修を実施してコンプライアンスの強化・徹底に努めています。

CCO (チーフ・コンプライアンス・オフィサー) の設置

「コンプライアンス担当役員」を「チーフ・コンプライアンス・オフィサー」に改め、取組み姿勢を分かりやすく示すとともに、体制の強化に努めました。今後も社員の意識向上を図るための体制づくりや施策を更に推進していきます。

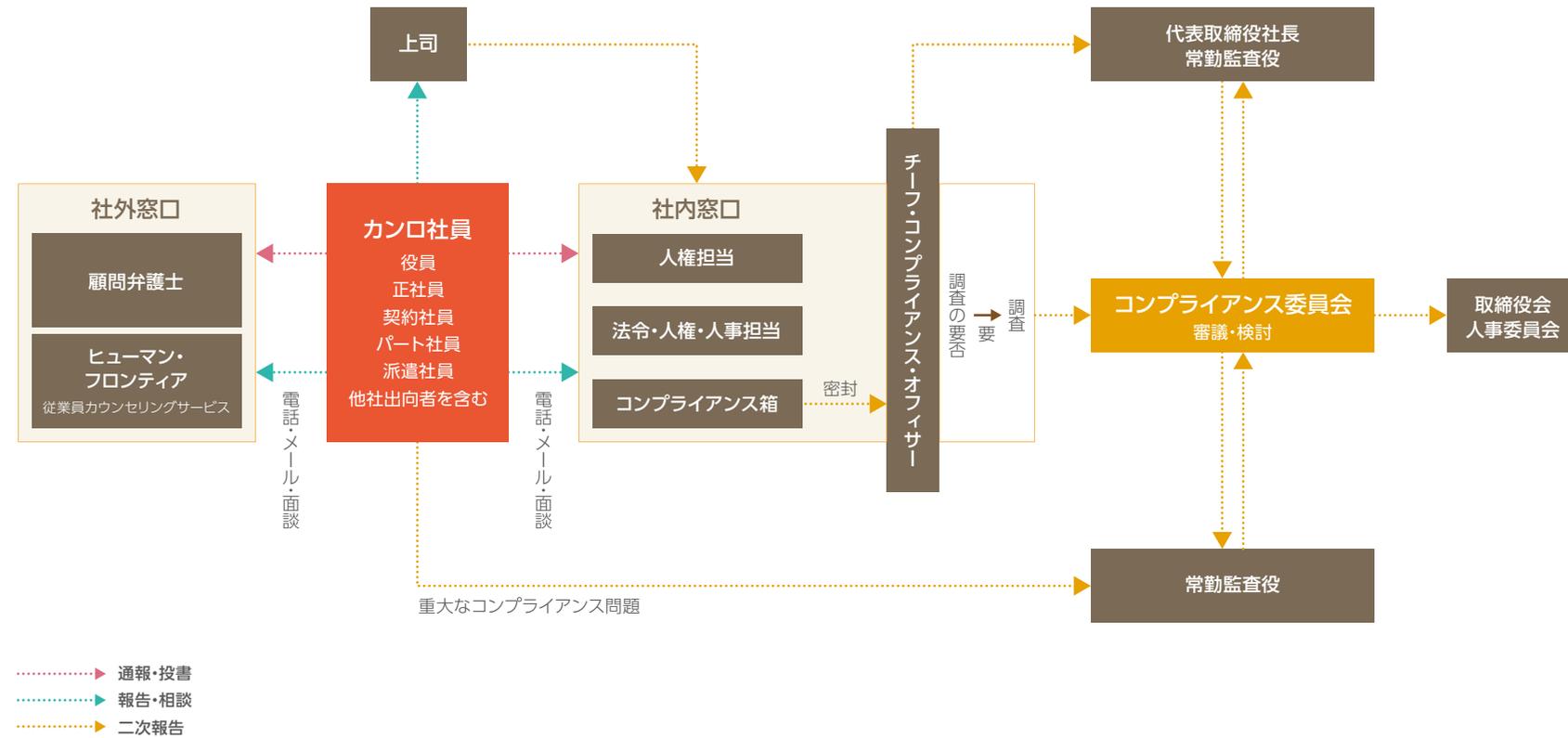
社員に対する教育

「企業倫理/コンプライアンス」に関する研修を定期的実施するとともに、全社員にコンプライアンスに関する重要事項をまとめたポケット型のコンプライアンスカードを配布し、意識向上・推進に努めています。

内部通報窓口の設置

コンプライアンスに抵触する事案や疑問を通報できる窓口を社内・社外に設置しています。通報時には、コンプライアンス委員会を招集し、審議・検討します。

内部通報概要図



リスクマネジメント

経営上のリスクを明らかにし、リスク発生を未然に防止、またリスクが発生した場合には迅速かつ的確に対応して損害を最小限に抑制するため、リスクマネジメント体制の強化に取り組んでいます。

BCP

社員とその家族に限らず、全ての人命の安全確保を第一とし、その上で業務の早期復旧および継続を実現すべく、事業継続計画を策定しております。お菓子の製造メーカーであるカンロの使命は安全で安心な商品の安定供給です。大規模災害が発生した場合には調達先の被災状況を確認し、仮に特定の原材料の供給が途絶した場合でも安定供給を図るため、代替の原材料を使用するなど生産の継続または早期再開を図ります。

*BCPとは、災害や事故などの予期せぬ出来事が発生した場合に、企業の重要業務を中断させない、あるいは中断しても可能な限り短時間での復旧・再開を目指して、組織体制、事前準備、災害発生時の対応方法などを規定した実行計画です。*BCP: Business Continuity Plan

ソーシャルメディアリスク低減への取り組み

ソーシャルメディアリスク低減を図るために、ソーシャルメディア利用に関する規定を定め、社員への周知・教育を徹底しています。またモニタリングにより、リスクの早期発見に努めています。

個人情報保護

保有する個人情報および特定個人情報保護についてその重要性を強く認識し、個人情報保護に関する法令や各種規範を順守し、個人情報の適切な保護に努めています。

情報セキュリティ

情報の取り扱いを適正に行うため、情報セキュリティポリシーに基づいて、管理を強化・実践しています。また社員教育の徹底や担当部門からの定期的な情報共有などを行っています。

社会性分野

Social

教育CSR

カンロは、創業から100年以上に亘り、「キャンディが人と人をつなぐきっかけとなってほしい」との思いをもって、カンロ飴やのど飴などのキャンディを世の中に送りだしてきました。これまでに事業活動を通じて得たノウハウを子どもたちの健やかな成長に役立てたいと考えています。

*教育CSRとは、教育現場への講師派遣や教材の開発・提供、施設見学・職場体験の受け入れなど、企業が社会の一員として教育活動に貢献すること。

「カンロ飴を届けよう～キャンディのうらがわ～」について

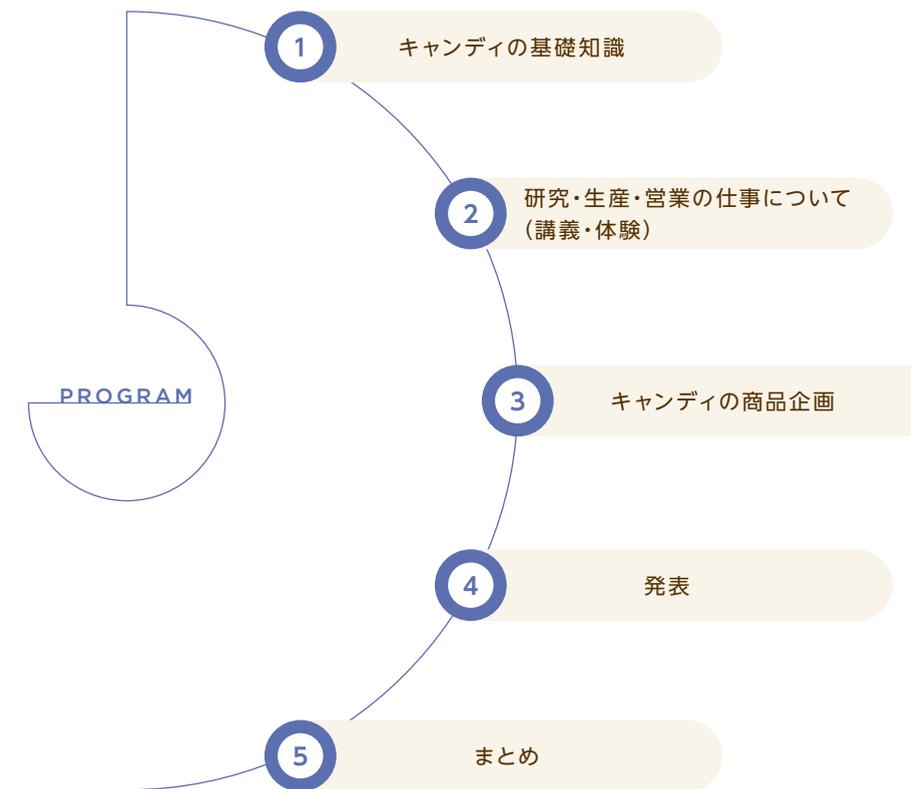


子どもたちの未来を応援するために、カンロが開発したオリジナルプログラムです。このプログラムでは一連の企業活動を通じて、キャンディが届くまでにどれだけ多くの人がつながっているかを学びます。体験・学び・グループワークなどを通じて自分の考えをしっかりと持ち、多様な考えの人とつながっていく人になってほしい、そんなメッセージを込めています。



プログラム内容

「キャンディが作られてから、お客様の手元に届くまで」の一連の企業活動を体験。



カンロこども社員 **168名** (2017年12月まで)

*こども社員とは、「カンロ飴を届けよう～キャンディのうらがわ～」プログラム修了者のこと。

2017年プログラム開催実績

神奈川県横浜市立新井中学校

2017年2月2日(木)



学びのフェス
@科学技術館

2017年3月29日(水)



夏休みこどもエコ講座
「エコにトライ!」
@エコギャラリー新宿

2017年7月21日(金)



「こども霞ヶ関 見学デー」
@文部科学省

2017年8月2日(水)



社員の家族に向けて
@ひかり工場

2017年8月21日(月)



～「教育応援グランプリ2017」において銅賞受賞～

2017年、カンロの教育CSRプログラム「カンロ飴を届けよう～キャンディのうらがわ～」は、研究、商品企画から営業体験も含む幅広い範囲を学べる点が評価され、銅賞を受賞しました。



*「教育応援グランプリ」は、企業による教育活動を応援することを目的に、リバネス教育総合研究センターと有識者が協力し、2012年から実施しているコンテストです。学校教育や国連のSDGs(持続可能な開発目標)、CRM(コーズ・リレーティッド・マーケティング)などの視点から審査を実施し、受賞企業を選出しています。

審査委員長 リバネス教育総合研究センター
藤田 大悟 氏

商品の紹介が軸ではなく、「人と人のつながり」を軸にプログラム開発されている。会社の理念を伝えつつ、子どもたちへのメッセージもあり素晴らしい活動である。流通のあり方を題材にコミュニケーション能力の「かん養」を学んでもらうユニークかつ明確な概念を持っている。また、16部門による組織横断的な社員研修にも取り入れることで社員と子どもが学び合う機会が生まれはじめており、これからの発展が期待できる。将来の人材獲得の視点も加えプログラムを昇華させてほしい。学校教育との連携がわかりやすいとより導入されやすいであろう。効果検証については、社外の専門家の知見を取り入れたり、社内外で議論を続けることで納得のいく形を作り上げてほしい。

*かん養とは、水が自然に染み込むように、無理をしないでゆっくりと養育すること。

社会への取り組み

カンロは「糖」を通じた「食」の提供を軸にさまざまな取り組みを行い、地球や地域社会とともに持続的に発展する企業を目指します。

フードバンク活動



賞味期限内であるにも関わらず、様々な理由から市場に流通できない食品を、食料を必要としている福祉施設や貧困者に配布する「フードバンク」活動を「セカンドハーベスト・ジャパン」を通して行っています。



セカンドハーベスト・ジャパン

日本で初めてフードバンク活動を始めたNPO法人。関東圏を中心に全国規模で活動。

地域への商品提供



毎年11月10日の創業記念日にあわせて、本社や工場のある4拠点にカンロのキャンディを寄贈しています。寄贈したキャンディは児童施設や障がい者、高齢者の施設などに配られ、毎年多くの方に喜んでいただいています。



CANDY PARK ヒトツブのヒカリ

創業100周年を記念し、カンロ発祥の地に建つひかり工場敷地内に開設。カンロという企業やキャンディをより身近に感じていただきながら、地域の皆様を結ぶ場として活用していただいています。



地域イベントへの出展



地域社会の皆様とより良い関係を築けるように、2017年まで本社があった東京都中野区の地域イベントに積極的に出展し、2015年から延べ101名の社員が参加しました。今後も全国の皆様と交流する機会をつくっていきます。



レッドカップキャンペーン



赤いマグカップは、世界で飢餓に苦しんでいる子どもたちのための「学校給食プログラム」の象徴。カンロは、WFP国連世界食糧計画(国連WFP)の飢餓撲滅を目指す活動に参加。2014年からは寄付つき商品販売し、一人でも多くの子どもたちが学校に通い、給食が食べられるよう支援しています。



キャンディスマイルプロジェクト



© Delgermaa Altangerel/Save the Children



2015年から「セーブ・ザ・チルドレン」とパートナーシップを組み、対象商品の売上の一部を寄付することで、モンゴルの子どもたちを支援するソーシャル・サーカスに協力しています。ソーシャル・サーカスとは、サーカスの技術を子どもたちに教え、その面白さを通して、子どもたち自身の協調性や自己肯定感を高めることを支援する活動です。モンゴルは、急激な経済成長を遂げる一方で経済格差の問題が顕著になっており、国民の2割強が貧困ライン以下の生活を余儀なくされています。その影響を最も強く受けているのが子どもたちであり、こうした継続的な支援が重要になっています。カンロではひとりでも多くの子どもたちが笑顔になれるようにこの活動を支援していきます。

カンボジアの子どもたちにぬいぐるみが届きました。



2016年にカンロ本社でぬいぐるみ作りのワークショップ*を実施しました。そのぬいぐるみが2017年5月、カンボジアでの乳幼児健診で子どもたちへ届けられました。



* (認定) 特定非営利活動法人シェア=国際保健協力市民の会が実施するカンボジアの子どもたちの支援活動。途上国において、保健医療サービスをなかなか受けられない環境にある住民の健康改善を目的として活動。カンボジアぬいぐるみ活動は、乳幼児健診に来てくれた子ども達にぬいぐるみを渡すことで「健診に来てくれてありがとう」のメッセージとともに継続して健診に参加することの大切さを伝えている。

参加した社員のコメント

「自分の周りの状況とこんなにも違うものかという現実に改めてショックを受けます。たったひとつのぬいぐるみを作っただけで、色々なことを考えさせてくれるこういった活動は、とても意味があることだと思います。感謝です。」

商品への取り組み

カンロは、お客様にとって安心できる、信頼ある企業でありたいと願っています。そのために、お客様に喜ばれる商品づくりを行うと共に、食の安全性への取り組みを重ねています。

基本方針



- 1.カンロは、食品メーカーとして商品の安全性を確保するため、商品の企画から製造・流通・販売に至る全プロセスにおいて関連する法令を順守し、安全性を優先します。
- 2.カンロは、品質を最優先し、お客様に喜ばれる、商品づくりを目指します。
- 3.カンロは、商品の安全性に万一問題が生じた場合は、速やかに原因を追求して再発防止に徹底して取り組みます。

食品関連法規の順守

品質管理部門では、定期的な商品の品質審査や製造環境審査、新商品の商品設計審査を実施。食品関連の法令順守の状況を確認しています。



FSSC 22000 認証取得

朝日工場では、多くの方に安全で安心な「おいしさ・楽しさ・健康」をお届けするため、食品安全の国際規格である「FSSC22000*」を2015年に取得しました。

*FSSC22000とは、オランダの食品安全認証財団が開発した国際規格。食品への異物混入の防止や衛生管理の基準などを定めている。



<http://www.audis.jp/client.htm>
<http://www.jas-anz.org/register>

VOC (お客様の声) 活動

お客様からのお問い合わせやご意見、ご指摘などは、すみやかに関係部署で閲覧できるようにし、商品の開発やサービス向上に役立てています。



トレーサビリティ体制

トレーサビリティシステムを導入し、従来に比べてさらに迅速かつ効率的に作業履歴を追跡できる体制を整えています。



人材活用

Human Resources

ダイバーシティ推進

多様な働き方や生き方を認め合い、一人ひとりが能力や個性を遺憾なく発揮できれば、社員はもちろん、会社の成長、発展にもつながります。

ダイバーシティ委員会の設置



2018年にダイバーシティ委員会を立ち上げ、ダイバーシティの定着と一層の環境整備や制度改革に取り組みます。女性の活躍はもとより、多様なライフ(生活)を尊重することで充実したワーク(仕事)が実現すると考えており、より自由な発想でカンロらしい取り組みとなるような施策を広く検討しています。ダイバーシティの推進には「意識改革」「コミュニケーション促進」「風土醸成」「制度変革」が重要な要素です。多様な人財が活躍できる理想の姿を描いて、部門を横断したワーキンググループで自身の事として検討する機会を設けるなど、全社的な取り組みとして活力ある職場づくりを進めていきます。



女性の活躍推進



「女性が活躍できる会社は社員にとっても働きやすい会社である」という観点から、さらなる取り組みが必要と考えています。そこで、女性の管理職8%の目標を掲げる一方、育児休業から復職しやすい環境や男性でも育児休業が取りやすい環境を整えるなどの取り組みを実施し、ますます柔軟な働き方に対応できる仕組みづくりを進めています。

高齢者雇用



定年退職後、再雇用を希望する社員を対象に、培ったスキルや人脈を活かせる継続雇用制度を設けています。再雇用者のモチベーション向上のために第2退職金制度、短時間勤務制度等を導入し、働きやすい職場環境を整えています。さらに、再雇用を希望しない社員に対しての支援制度を実施し、3名がこの制度を利用しました。特別退職金の支給に加え、再就職や独立・起業から、ライフプランにマッチした国内外への移住、ボランティアまで充実したセカンドライフを幅広くサポートしています。

高齢者雇用実績 **3名** (2017年度)

2017年実績

退職者……4名

再雇用制度利用者……2名

再雇用者合計人数……10名

契約社員から正社員へ



働く意欲の高い契約社員が、よりやりがいや責任を持って働ける環境づくりのために、積極的に正社員に登用する制度を導入。それによって福利厚生の実施や賃金の上昇で、モチベーションアップ、キャリアアップを目指す取り組みです。

契約社員から正社員へ登用実績 **4名** (2017年度)

ワークライフバランス



仕事と子育てを両立できるように育児休業制度の見直しを行い、男性も含めて、社員が育児休業をとりやすい環境づくりをすすめています。

育児休業取得者実績 女性……**6名** 男性……**2名** (2017年度)

取得者の声 [生産部] 菊地 隆則

まだ、子どもが生後2ヶ月と小さい中で、毎日1人で面倒を見てくれていた奥さんの負担を軽減したいという思いで取得しました。期間中は普段は出来ない家の掃除や片づけをやったり、子どもの面倒を長めに見たりと、少しは役には立てたかなと思います。奥さんの毎日の苦勞がわかり、私も一緒に頑張らないと、と思う良いきっかけになりました。



環境分野

Environment

地球環境のために

事業活動から生じる環境負荷の低減とともに、持続可能な社会を実現していくために食品廃棄物の発生抑制を行いながら、社員を対象とした教育・啓蒙活動を実施しています。

エコ委員会



部門の垣根を越えた環境管理活動を統括する組織として、2009年にエコ委員会を設立しています。商品開発から販売まで、あらゆる事業活動の場面において、継続的な環境負荷の軽減を目標にしています。

ISO 14001認証取得

製造室内の空調施設や製造工程における原料の煮詰め・冷却などに多くのエネルギーが使われている工場では、環境マネジメントシステムの認証を取得し、エネルギー使用量の削減など、環境に配慮した生産活動を行っています。



CM001



JIS Q 14001
JSAE 204
ひかり工場



JIS Q 14001
JSAE 351
松本工場・朝日工場

クリーンエネルギーの利用

朝日工場は、2015年6月から、CO₂を排出せずに発電できる太陽光発電設備の設置と売電の仕組みを構築しました。また1日の発電量が一目でわかるモニターも設置し、社員の環境に対する意識を育成しています。



松本工場は、ボイラーと空調設備の燃料を重油からCO₂の排出量が化石燃料の中で最も少ない都市ガスへ変更しました。今後も積極的にクリーンエネルギーの利用に努めていきます。

期間	2013年 1月~12月	2014年 1月~12月	2015年 1月~12月	2016年 1月~12月	2017年 1月~12月
A重油*排出CO ₂	1656 tCO ₂	1067 tCO ₂	88 tCO ₂	38 tCO ₂	16 tCO ₂
ガス排出CO ₂	0 tCO ₂	492 tCO ₂	1276 tCO ₂	1405 tCO ₂	1413 tCO ₂
合計	1656 tCO ₂	1559 tCO ₂	1364 tCO ₂	1443 tCO ₂	1429 tCO ₂
前年比	—	5.9%削減	12.5%削減	5.8%増	0.97%削減

*主に食品工場の加熱用ボイラーで使用される重油。

排熱回収システムを採用

工場で使用している除湿器の排熱を有効活用するために、ひかり工場、松本工場では、排熱回収システムを取り入れています。今後は、朝日工場への展開を予定し、より環境に配慮した生産を行っていきます。

食品廃棄物の発生を抑制する活動

製造工程で発生する「不良品」を有効活用するために、その大半を飼料・肥料としてリサイクルしています。またサプライチェーンマネジメント部門が生産および販売部門と需給調整をすることにより、食品廃棄物の発生を抑制しています。

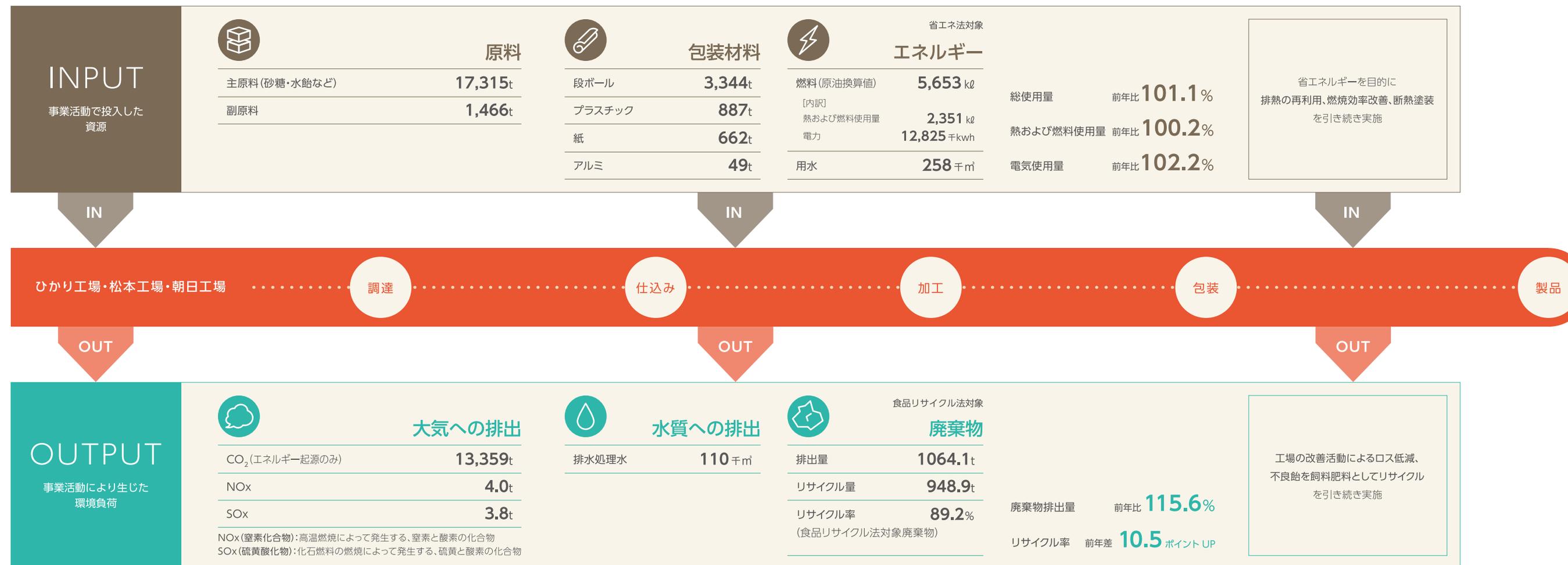


マテリアルバランス [2017年1月～12月]

生産において排出するCO₂の低減や原材料の有効活用など、事業活動における環境負荷の全体像を把握するよう努めています。

カンロの生産体制における環境負荷の全体像

「マテリアルバランス」とは、企業の事業活動におけるエネルギーおよび資源の投入量 (INPUT) と、その活動にともなって発生した環境負荷物質 (OUTPUT) を数値に換算して、ひと目でわかるようにしたものです。



カンロ株式会社

〒163-1437

東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティビル37階

Tel.03-3370-8811

www.kanro.co.jp